

<b>Course number</b>	U-LAS70 10001 SJ50				
<b>Course title (and course title in English)</b>	ILASセミナー : 科学的宇宙観の変遷 ILAS Seminar : Evolution of Scientific Cosmology	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Science Professor, OOTA KOUJI		
<b>Group</b>	Seminars in Liberal Arts and Sciences	<b>Number of credits</b>	2	<b>Number of weekly time blocks</b>	1
<b>Class style</b>	seminar (Face-to-face course)	<b>Year/semesters</b>	2024・First semester	<b>Quota (Freshman)</b>	6 (6)
<b>Target year</b>	1st year students	<b>Eligible students</b>	For all majors	<b>Days and periods</b>	Mon.5
<b>Classroom</b>	Room 416, Graduate School of Science Bldg No.4 (North Campus)			<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>Keyword</b>	天文学				
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>宇宙観（あるいは世界観）は、人類の精神的バックボーンとなる非常に重要なものであると言ってよいだろう。本ゼミでは、その歴史・変遷について調べていきたい。</p> <p>約2000年前に作られた天動説は、観察に基づくそれなりによくできたものであった。それはどのようなものであったのか？また、昔の人はどのようにしてそのような宇宙観を持つに至ったのだろうか？</p> <p>1543年には地動説が提唱されたが、何故地動説が提唱されたのだろうか？コペルニクスの地動説はある意味コペルニクスの転回ではなかったせいか評判がよくなかったという側面もあるようである。何故だろうか？</p> <p>やがて恒星天という概念がなくなり星の世界の描像が確立されてきた。この過程にはどんな発見があったのだろうか？</p> <p>20世紀になって銀河という概念が確立され宇宙観は非常に大きく広がった。その成立過程はどうだったのだろうか？</p> <p>等といった視点を各自で設定しそれについて調べる。パラダイムシフトに潜むものの考え方・アプローチには現在の我々の常識からは想像もつかない要因がある場合もある。目から鱗的なものがあると期待され、これを経験できればというのが目標である。なお、担当者は天文学の研究者ではあるが、その歴史や科学史の専門家ではないので、自分でテーマを設定して自分で勉強する「対話を根幹とした自学自習」的ゼミを目指す。</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
<p>自ら問題を設定して調べるという、自得自発あるいは自学自習の実践体験になる。</p> <p>現在の視点から整理しなおされた常識が、発見当時には全く違う発想で発見されているようなケースに遭遇することにより、ものの見方の相対化の重要性を実感できる。</p>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
<p>本ゼミナールでは、受講生各自で課題を決めて、それについて調べ、ゼミで発表するという形で行う。</p> <p>第1回は、ゼミの目標・進め方を説明した後、科学的宇宙観の変遷について簡単に紹介し、課題設定の参考にする。</p> <p>第2回は、課題設定の内容やその調べ方等についての相談等に充てる。</p> <p>第3回～14回は、受講生の発表に充てる。</p>					
Continue to ILASセミナー : 科学的宇宙観の変遷(2)					

**ILASセミナー : 科学的宇宙観の変遷(2)**

発表は一人2回程になる予定である。また1コマで二人が発表することもあり得る。発表しない回でも、素朴な質問や「対話」等を通じてゼミに積極的に参加することが期待される。第15回では、全員の発表の総括や将来への展望などあれば議論する。また発表が途中になっている人がいればこの回でも続きの発表に充てる。

**[Course requirements]**

None

**[Evaluation methods and policy]**

ゼミでの発表（必須：70%程度）と参加時の積極性（30%程度）に基づいて評価する。

**[Textbooks]**

特に指定しない。各自で探す。課題によっては、ある程度の文献は紹介できる。

**[References, etc.]**

（References, etc.）  
教科書と同じ。

**[Study outside of class (preparation and review)]**

自分で調べる内容を決めて、それについて調べるというスタイルであるので、この意味で予習が主体となる。

**[Other information (office hours, etc.)]**